沖縄を撮り続ける
中村卓哉の
心を揺さぶった

西表島の超ビッグスポット

オガン!

沖縄本島・辺野古の海を
撮り続けることをライフワークとする
水中カメラマン・中村卓哉。
彼が「潜るのは人生でまだ２度目」と言う、
西表島の超ビッグスポット・オガン。
そこで中村卓哉の心を揺さぶった絶景とは？
中村卓哉による西表島のウェブマガジン、
どうぞご堪能ください。

撮影・文：中村卓哉
構成：犬養拓
デザイン：中村孝子
協力：ダイビングチームうなりざき

ocean+α ©ocean+ α ウエブマガジンの二次配付および画像・文章の複製、二次使用を禁じます

Information Link
http://www.unarizaki.com/iriomote/201308_australia
click! 関連情報HPへ

「人生２回目のオガンダイビングへ」

西表島にはベテランダイバーが憧れて止まない聖域のようなポイントがある。西表島から南西に約 15 キロ離れた仲之御神島、通称 “ オガン ” である。

無人島である岩場に囲まれたこの島は渡り鳥の繁殖地としても知られており、カツオドリやアジサシの仲間が 1 万羽以上も住み着いている。過去に、この島に野鳥観察をしに来たくてわざわざダイビングの C カードを取ったという野鳥愛好家もいるという。その方はさらにオガンダイビングが可能な最低経験本数 50 本以上を潜ってオガンをリクエストしに西表島に戻ってきたのだというから驚きだ。勿論、こうした黒潮のバンバン当たる孤島は外洋を回遊する魚達にとってもオアシスとなる。ある程度経験を積んだダイバーなら、この島のロケーションを見ただけでワクワクが止まらないはずだ。しかし何を隠そう私自身、このオガンへ潜るのは今回が 2 回目。15 年程前に別の島から遠征し潜りにいったのだが、ただ流れがきつく激流を泳いだだけで何も出会えずに引き返した経験がある。以来オガンには軽いトラウマがあったのである。

船がオガンに向う間にそんな話をオーナーの吉坊さんに話すと、「それもオガンだからね。当たればカスミアジ 1000 匹の群れにツムブリとバラクーダが混在するよ。絶対は無い！だからみんなオガンに戻ってくるんだ。」

なるほど、なんとも夢のような話ではないか。そんな凄まじいオガンの姿を早くこの目に焼き付けたい。遠くにうっすらオガンの島影が見えてくると一気に胸の中がザワザワと騒ぎはじめてきた。「まずは天馬崎というポイントへ入りましょう」

今回ガイドを担当してくれるダイビングサービスうなりざき西表の店長、森脇さんがもの静かに言う。彼は 20 才の時に広島から西表島へ渡り、以来 13 年間うなりざき一筋で経験を積んだオガンのスペシャリストだ。

ポイントへ到着すると潮の流れのチェックをしに彼は海に飛び込んだ。

「行きましょう」

その合図で皆エントリーの準備を始めた。

オガンの周囲では頭上をカツオドリが旋回していた

空気を入れたペットボトルを指示棒で太鼓の様に打ち鳴らしカスミアジを寄せるガイドの森脇さん

オガン！

ocean+α ©ocean+ α ウエブマガジンの二次配付および画像・文章の複製、二次使用を禁じます

Information Link
http://www.unarizaki.com/iriomote/201308_australia
click! 関連情報HPへ

悠然と目の前を泳ぐイソマグロの編隊（天馬崎）

まるで岩畳のような不思議な地層をもつ天馬崎の海底

**天馬崎の海中の景色は、
まるで世界中の絶景を
飛行しているようだ。**

巨岩が重なり合って出来た天馬崎の洞窟

東ノ根では約 20 匹と数は少ないがギンガメアジの群れに遭遇した

タイマイも潮に流されながら優雅に泳いでいた

「海中のグランドキャニオン」

エントリーしてすぐに現れる岩畳のような不思議な地層の上を気持ちよく流されて行く。すると不思議なムチヤギが覆い茂った根や巨大な岩がゴロゴロと置かれた光景を横目にし、やがて巨岩が重なり合って出来た洞窟に突き当たる。カレントの通り道となったその洞窟の中は強力な流れで、一気に身が暗闇に吸い込まれていく。

自分の吐いたエアーが映り込まない様に息を止め必死に流れに堪えながら洞窟内を撮影すると、ここで少々体力を消耗してしまった。しかしこの後に待ち構える光景でその疲れも吹っ飛ぶ事になる。

いよいよクライマックス、潮がぶち当たる根にしがみつくと、目の前を悠然と 50 匹ほどのイソマグロが回遊していた。無我夢中でシャッターを切りながらマグロを追いかけようとすると、森脇さんが静かに手をかざし静止の合図を出した。言われるがまま、方向転換し岩にしがみつきながら彼の後についていくとやがて目の前の岩陰から巨大なマグロの魚影が再び姿を現した！“郷に入りては郷に従え“ここでは彼の指示は的確である。この鋭い読みは長年の培われてきた経験に裏打ちされたものだ。

5 月～ 9 月のコンディションが良く波の無い時期でしか潜る事の出来ないオガンへ年間 70 回ほど行っているうなりざき。この数は西表島のダイビングショップの中でも群を抜いて多い。「オガンならうちに任せろ」というような内に秘めた自信と誇りを彼のガイドを見て感じた。15 年前に潜ったネガティブな印象をかき消すには十分な、感動的なオガンダイビングだった。

海から上がると森脇さんに「今日のオガンはベストが 100 なら何％くらい？」と聞くと「うーん、40%です」と苦笑いしながらこたえてくれた。「これで 40%？」その言葉を聞き、さらに期待が増幅されていった。

オガン！

ocean+α ©ocean+ α ウエブマガジンの二次配付および画像・文章の複製、二次使用を禁じます

Information Link
http://www.unarizaki.com/iriomote/201308_australia
clicki 関連情報HPへ

光のシャワーを浴びると一気に体がリフレッシュするような感覚に（光の宮殿）

砂地の水路を進むとそこには洞窟の入り口がある

「静と動のコントラスト。 オガンの2つの顔」

三ノ根の通常ルートよりさらに先の未開のスポットではホワイトチップが眠る洞窟が

三ノ根のイソマグロは一際サイズが大きい

時に根にしがみつき激流に流されるのをこらえながら、回遊魚の群れを待つ。そんなドリフトダイビングのスタイルはオガンの象徴的なイメージとして周知されている。真横に流れるダイバーの吐くエアー、鯉のぼり状態でガイドロープにつかまるダイバー達、静寂をかき消すように目の前に現れる大迫力のイソマグロやカスミアジの群れ。うなりざきだけが案内出来るという「三ノ根」というポイントでは時にカスミアジの 1000 匹の壁に遭遇出来るという。

残念ながら今回の取材ではその 10 分の 1 にも満たない数のシルエットを確認出来たくらいであったが、ここでは 2m 超のイソマグロの群れに遭遇するなど明らかに唯一無二の可能性を感じるポイントであった。

このように、オガン＝動という印象は潜ったことの無い方でも写真を見ていただければ直ぐに伝わるだろう。

しかし、オガン＝静というもうひとつの顔があることは案外知られていない様に思う。静かなオガンのイメージを楽しめる場所のひとつ「西のスポット」というエリアがある。2 本潜った後のお昼時、風よけで停泊しながらお弁当を食べる浅場のポイントだが、私はこの場所がもの凄く気に入った。

晴天の日に潜ると、真っ白な砂紋に自分の影が映し出され思わずそのまま漂っていたくなる。ぽっかりと脱力して海とひとつになる感覚、真上にぽっかりと浮いていく呼吸、ここにはまさにオガンのもうひとつの優しい顔が存在する。そして水深 5m ほどの浅場のアーチをくぐって行くと、美しい洞窟まで存在する。「光の宮殿」と名付けられたこの洞窟の中にはその名の通り、神々しくもある美しい光のシャワーが燦々と降り注いでいる。

静と動のコントラストは、オガンを唯一無二の聖域とまで感じさせる大きなファクターなのかもしれない。

クレバスから差し込む光を浴びる癒しの空間（光の宮殿）

オガン!

ocean+α ©ocean+ α ウエブマガジンの二次配付および画像・文章の複製、二次使用を禁じます

ふわっと砂地の上を漂う

この光景こそ
オガンのもうひとつの優しい顔

オガンに広がる砂地（西のスポット）

オガン!

ocean+α ©ocean+ α ウエブマガジンの二次配付および画像・文章の複製、二次使用を禁じます

Information Link
http://www.unarizaki.com/iriomote/201308_australia
click! 関連情報HPへ

波の無い日は半水面の写真を撮影（シークレットガーデン）

「山の栄養が育むサンゴの森と小さな命」

西表島の海は実にバリエーションが豊富だ。サンゴ、藻場、砂地、地形、大物ポイント…etc ダイビングで楽しめる様々な環境要素を集約した海なのである。

広大な熱帯雨林が造り出す栄養分はいくつもの川を通してダイレクトに海に注ぎ込まれ、多種多様な生態環境を造り出しているのである。とりわけ崎山の「シークレットガーデン」のサンゴ礁の美しさは奇跡と言っても過言ではない。青や黄色に色づくエダサンゴの森は、無限に続くハンモックの様に、デバスズメダイやネッタイスズメダイなどの魚達を優しく包み込む。このスケールのサンゴ礁を見る事の出来る場所は、世界的にもいまや殆ど存在しないのではないだろうか。

エダサンゴの森とガレ場の境界線がハッキリと分かれた場所も存在し、サンゴの隙間に暮らすデバスズメダイ達の産卵場ともなっている。サンゴは死んでからもガレ場や砂地といった新たな環境を生み出す事で、普遍的に命を育んでいるのである。
また、内湾性のハゼや甲殻類などマクロ生物が豊富な「T's エリア」は、汽水域という特異な環境によって希少種達が数多く棲み分けしている。

沖縄本島では辺野古周辺でしか見る事の出来なくなってしまったネオンテンジクダイもここでは数多く生息し、口内保育のシーンにも出会う事が出来た。昨今、沖縄全域を見ると沿岸部は都市化などにより、マングローブ、干潟などの生き物達の大切な生育場が失われつつある。ここ西表島の広大なジャングルの恵みはそんな世の中の流れとは完全に逆行し、今や島全体が生き物達のオアシスとなっている。じっくりと撮影をするなら「外離南」もお勧めだ。このポイントはワイドもマクロもどちらも素晴らしい。浅場のエダサンゴにはノコギリダイとアカヒメジが塊で群れ実にフォトジェニックだ。オーバーハング状の崖を下るとニチリンダテハゼ、ハナヒゲウツボの幼魚、ナミスズメダイの産卵シーンなども見る事ができた。このポイントは時間がいくらあっても足りないので、今回の取材では数回訪れた。

バブルコーラルシュリンプ（外離南）

マンジュウイシモチ（T's エリア）

カクレクマノミの頭上をアカヒメジの群れが泳ぐ（外離南）

ニチリンダテハゼ（外離南）

コブシメの赤ちゃん（T's エリア）

ocean+α ©ocean+ α ウエブマガジンの二次配付および画像・文章の複製、二次使用を禁じます

Information Link
http://www.unarizaki.com/iriomote/201308_australia
click! 関連情報HPへ

カクレクマノミの赤ちゃん（シークレットガーデン）

カサイダルマハゼ（網取浅場）

ヘコアユの赤ちゃん（T's エリア）

サンゴの上を覆い尽くすほどのデバスズメダイ（シークレットガーデン）

ocean+α ©ocean+ α ウエブマガジンの二次配付および画像・文章の複製、二次使用を禁じます

Information Link
http://www.unarizaki.com/iriomote/201308_australia
click! 関連情報HPへ

オガンへ向かう、うなりざきのダイビング船

うなりざき西表の男性スタッフ

元々うなりざき西表の店長だった曾我さん (左) が石垣店から駆け付けて現店長の森脇さん (右) との 2 ショット

「現地ショップの理想を追い求めたひとつの答え」

現地ショップでこれだけ多くのゲストが日々訪れ、しかもリピーターの多くは一人で潜りに来るというお店も稀である。「うなりざき荘という小さな民宿からスタートし、今やこれだけの多くの人々の夢を形にしているって本当に素晴らしいこと」40 年も前から西表島に通っているというゲストのひとりのそんな言葉が印象的だった。勿論、お店が大きくなればそれだけ手の行き届かないところが出てきてしまう可能性もある。しかし、うなりざき西表店に関してはその考えは当てはまらない様に思える。

経験豊富なスタッフが揃い、船もオガン船、波照間船、西表船、フレキシブルな小型船までも揃っている。これは訪れるひとりひとりのゲストに対して、細やかなニーズに真摯に対応する為の真心に他ならない。当然訪れるゲストに対して快適に過ごしてもらう為の宿泊施設も充実させている。

「イルマーレウナリザキ」

全室オーシャンビューの客室 40 ルーム（シングル 22 ルーム・ツイン 18 ルーム）とレストラン棟を配したリゾート施設。朝食は無料で和・洋食のバイキングというのが嬉しい。

夕暮れに染まるイルマーレの外観

「ヴィラうなりざき」

「隠れ家風リゾート」と「快適なアフターダイブ」を二つのコンセプトとするリゾート。ダイバーはもちろん、ノンダイバーも利用可能。

清潔感があり落ち着いた雰囲気の室内

オガン!

ocean+α ©ocean+ α ウエブマガジンの二次配付および画像・文章の複製、二次使用を禁じます

Information Link
http://www.unarizaki.com/iriomote/201308_australia
click! 関連情報HPへ